

平成27年(ワ)第1837号 損害賠償請求事件

原告 渡部昇一他

被告 株式会社朝日新聞社

## 陳述書

平成27年10月14日

渡部昇一

今から三十年位前でしょうか。朝日新聞が従軍慰安婦の報道をいたしました。その時、私はすぐに雑誌か何かに書いた覚えがありますが、慰安婦に従軍はない。従軍看護婦とか従軍僧(坊さんですね)、従軍記者とかそういうものはありましたけれども、従軍慰安婦はないというようなことを書きましたし、その後、強制連行みたいなことを言い出した時も、それは絶対ありませんと書きました。

そのために、私は、「なんか嘘つきみたいだ」というような批判を、いろいろと受けました。なにしろ、朝日新聞がそういうのが「ある」というのですから、それに対して「ない」と言っている私は、学生などからも「嘘をついているみたいだ」と言われたことがあります。

しかし、当時の朝日新聞のデスクくらいの歳の人でしたら、あれは嘘だと始めから分かっていたはずです。部下から報道が上がってきても、おかしいと思ったら、裏を取るべきでした。その裏も取らずに、強制性があったと報道したのですね。その強制性というのは、私には絶対に考えられないのです。

というのも、私は、宮尾登美子さんの小説を読みましてね、宮尾登美子さんのお家は当時の女衞ですが、そういうものの親分みたいな方だったそうです。それで、宮尾さんは、小説家として自分の育った環境を詳しく書いておられます。それでも分かりますように、戦地に行く売春婦ですね、この人たちが強制ということは絶対にないのです。

宮尾さんの記憶のよりますと、普通の時は、だいたい貧しい人が娘を連れて来ると、いわゆる売春的な奉公をする期間で、千円くらい借りると。返せばすぐ自由になるわけですから、もちろん奴隷ではありません。ところが、満州事

変等が始まり、戦地や占領地が増えますと、どんどん値段が上がり、三千円とか五千円とかになったことを生々しく書いておられます。当時の朝鮮は日本の制度と同じですから、同じく女衞が集まってやったことは、これは後でいろいろ証明する方がいて、慰安婦募集の新聞広告も出しております。強制連行などする必要がないのです。

吉田清治という、始めに言い出した人が、嘘をついていたと白状してからですら、朝日新聞は直さなかった。そのために、どのくらい迷惑を被ったかといえますと、例えば、うちの娘は今スイスに住んでいます。その娘の子供もスイスの学校に通っているのですが、かれらは朝日新聞の記事のせいで恥をかいているのです。私の家庭だけではありません。外国に住んでおられる多くの日本人が、みな恥をかいておられると思います。アメリカでも、授業で先生がこの話をした時、日本人の子どもたちは顔を上げなかったという話もあります。このように、朝日新聞は世界中で日本人に恥をかかせているわけです。

この問題を解決する簡単な方法があります。

朝日新聞の社長が国連に行って、クマラスワミさんに会って、「あなたがお書きになったものは全部私の新聞のインチキでした」と言えば、クマラスワミさんもインチキを否定出来ないと思います。また、アメリカにある従軍慰安婦像の前で「これは私の新聞の誤報・虚報によるものです」と言えば、言われたほうは像をそのままにはしないとします。さらに、強制連行を掲載したアメリカの大手教科書会社にも、「私の新聞のウソが元です」と言えば、教科書会社もそのまま発刊は出来ないと思います。

ですから、私が一番望みたいことは、朝日新聞社の社長が、今問題になっている国連や間違った報道をしているアメリカ、ドイツ等の先進国、あるいは慰安婦像などを建てている場所、さらには韓国等に行って、「あれは私の新聞の全くの虚報でした」と頭を下げて欲しい。そうすれば問題はすべて解決します。

朝日新聞がそれをしないので、私は、私を含めた日本人全体が被っている被害に対して、謝罪広告と損害賠償を請求している訳です。 以上